

わび茶の道具 瀬戸茶入

瀬戸芋子茶入

16世紀 松井文庫所蔵

戦国武将といえば猛々しいイメージがありますが、その心の癒しとなったのが「茶の湯」でした。心静かに茶を飲むことはもちろん、茶を飲むのに必要な道具たちもまた武将たちの心を癒したのです。

武将たちが茶道具のなかでもっとも愛蔵した物の一つが、抹茶をいれておくための容器「茶入」です。中国から日本へ渡ったいわゆる「唐物茶入」は姿形によって「名物」などとランク付けされ、やがて持っているだけでステータス・シンボルにもなったため、武将たちはこそつて名物茶入を集めました。

こうして茶の湯ブームとなった日本では、唐物茶入をはじめとする中国産茶道具の模倣品が数多く生産されるようになります。その筆頭となったのが、六古窯の一つにも数えられる瀬戸窯です。瀬戸窯で焼かれた茶入は、わび茶の隆盛により人気となった国産茶入のなかでも別格とされ、多くのわび茶人に愛用されました。

八代松井家では、初代・康之がわび茶の大成者・千利休の高弟であったこともあり、代々わび茶が愛好されました。そのため、松井家には数多のわび茶道具が

伝来しています。写真は、松井家に伝わる瀬戸焼の芋子茶入です。丸くなで肩で小ぶりなところが里芋に似ているため「芋子」とよべれます。芋子茶入は日本独自の形で、飾り気のない本作からも茶の湯における戦国期の美意識を感じ取ることが出来ます。

松浜軒の松井文庫展示場では、松井家の茶道具と題し、瀬戸茶入のほかわび茶の道具として珍重された楽茶碗、竹花入、茶杓を二堂に展示しています。この機会に、ぜひお出かけください。

(市立博物館未来の森ミュージアム)

学芸員 宮原江梨



瀬戸芋子茶入 16世紀
松井文庫所蔵
高さ6.0cm
胴径5.5cm
重さ108g

■松井文庫展示案内 [企画展示]

松井家の茶道具

～瀬戸茶入・楽茶碗・竹花入・茶杓～

- 会 期 開催中～令和3年1月末日まで
- 会 場 松浜軒内 松井文庫展示場
午前9時～午後5時
(入園は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)
- 観覧料 一般500円
小中学生250円

問合せ 松浜軒/松井文庫 ☎ 33-0171

令和2年度 八代ふるさと直送便

晩白柚と一緒に、八代の逸品を全国へ届けます。

申込期間 11月1日(日)～30日(月)まで

申込窓口 八代駅観光案内所

毎日 午前9時～午後4時

くまナンステーション

木曜以外毎日 午前10時～午後4時

本庁仮設庁舎西棟1F

月・金のみ 午前9時～午後4時

※FAX・郵送での申し込み可

発送日 A商品 12月 8日(火)

B商品 12月 9日(水)

販売価格 各5,000円(送料・税込み)

問合せ DMOやつしろ ☎ 31-8200



今月の表紙

坂本町鶴喰地区で大好きなお爺ちゃん、お姉ちゃんと初めての稲刈りに挑戦した鬼塚遙音君(八代双葉保育園)。「稲を刈るところが難しかったけど、とても楽しかった」と笑顔を見せました。(関連記事を30ページに記載)